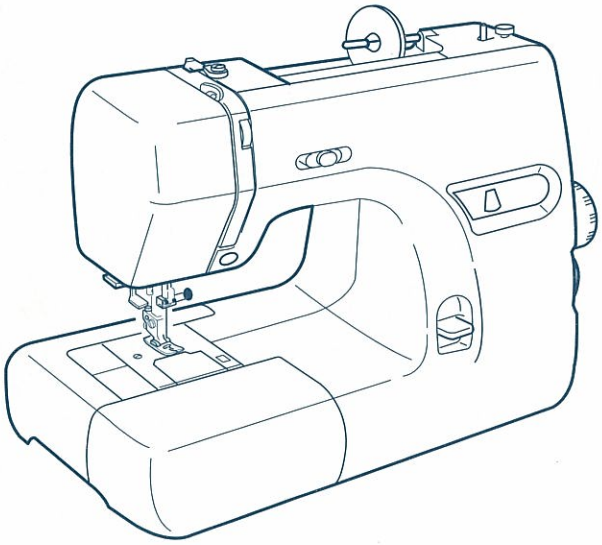
使い方の手びき

《取扱説明書》

Type 610



安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのもの
です。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
⃠	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

⚠警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。	必ずプラグを持って抜く	以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
禁　止	縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。
禁　止	曲がった針はご使用にならないでください。
禁　止	付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。
禁　止	電源コードの上に、物をのせないでください。
必ず実行	針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
必ず実行	ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください
必ず実行	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。
必ずプラグを持って抜く	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき ・上糸・下糸をセットするとき ・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。) ・ミシンのお手入れを行うとき
必ずプラグを持って抜く	ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目　次

おとり扱いについてのお願い ―― 2
●各部の名まえ ―― 3
●補助テーブル ―― 4
●標準付属品 ―― 4

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方 ―― 5
●速さの調節のし方 ―― 5
●フットコントローラーの収納 ―― 5
●スタート・ストップボタン ―― 6
●返しぬいレバー ―― 6
●押えのとりかえ方 ―― 6
●押え上げ ―― 7
●糸調子の合わせ方 ―― 7
●下糸の準備をしましょう ―― 8
★ボビンをとり出します ―― 8
★ボビンに糸を巻きます ―― 8・9
★ボビンをかまにセットします ―― 9
●上糸の準備をしましょう ―― 10
★上糸を掛けます ―― 10
●糸通しの使い方 ―― 11
●下糸を引きあげるには ―― 12
●布に適した糸や針を選ぶ目安 ―― 12
●模様選択ダイヤル ―― 13
●送りダイヤル（ぬい目あらさ調節） ―― 13
★スーパー模様の形の整え方 ―― 13

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい ―― 14
★ぬいはじめ ―― 14
★厚手の布端のぬいはじめ ―― 14
★ぬい方向をかえるには ―― 14
★ぬいおわりと糸の切り方 ―― 14
★針板ガイドラインの利用 ―― 14
●ジグザグぬいとかがりぬい ―― 15
★ジグザグぬい ―― 15
★ジグザグぬい裁ち目かがり ―― 15
★トリコットぬい裁ち目かがり ―― 16
★かがりぬいステッチ ―― 16
●くけぬい（まつりぬい） ―― 17
●三重ぬい ―― 17
★直線三重ぬい ―― 17
★ジグザグ三重ぬい ―― 17
●ボタンホール ―― 18
●芯入りボタンホール ―― 18
●ファスナーつけ ―― 19・20

応用ぬいいろいろ

●キルティング ―― 21
●ピンタック ―― 21
●アップリケ ―― 21
●パッチワーク ―― 22
●スモッキング ―― 22
●シェルタック ―― 22

押えホルダー・針・ランプのとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方 ―― 23
●針のとりかえ方 ―― 23
●ランプのとりかえ方 ―― 23

ミシンの手入れと調整

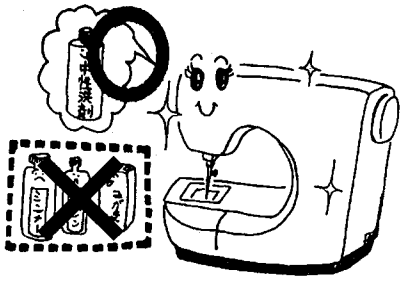
●ミシンの手入れ ―― 24
★かまの掃除 ―― 24
★かまの分解 ―― 24
★かまと送り歯の掃除 ―― 24
★かまの組つけ ―― 24
●ミシンの調子が悪いときの直し方 ―― 25
別売品のご紹介 ―― 26

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

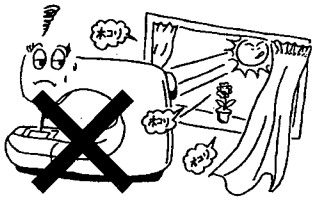


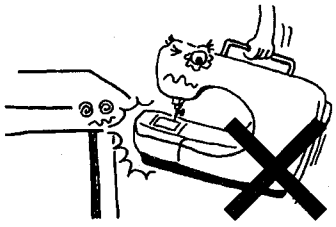
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

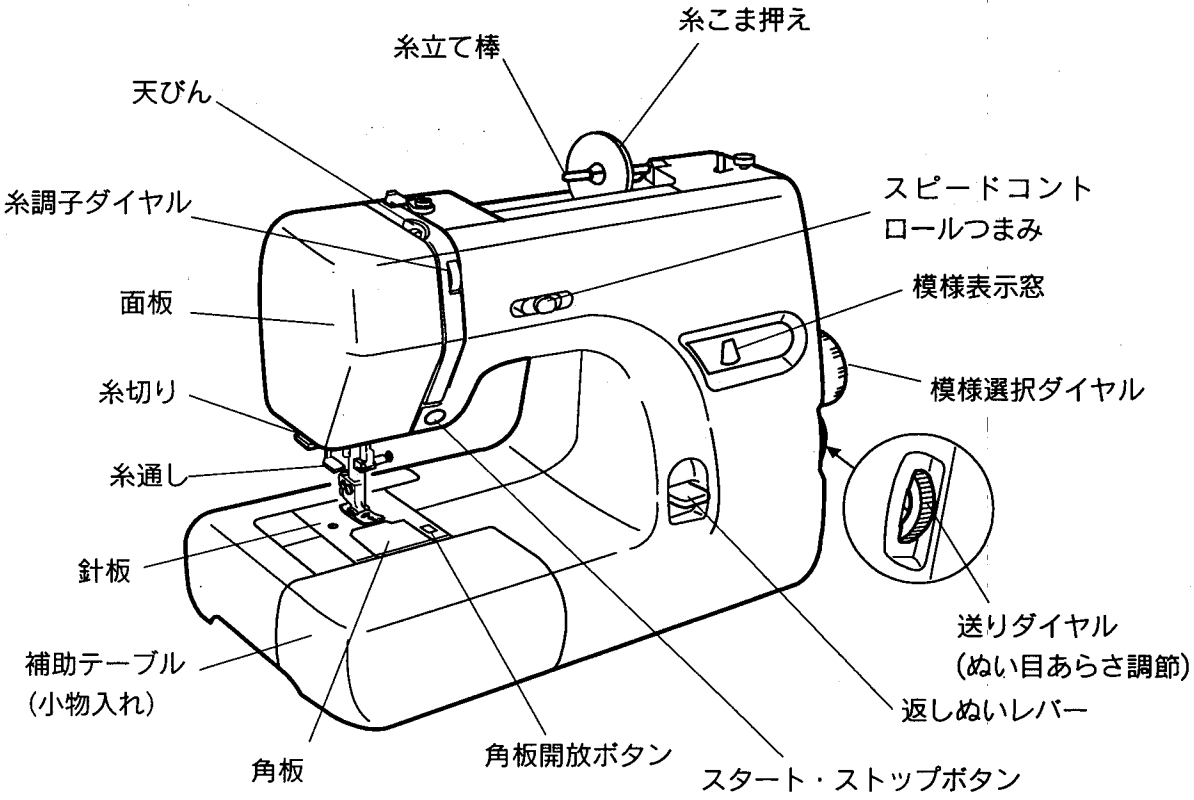


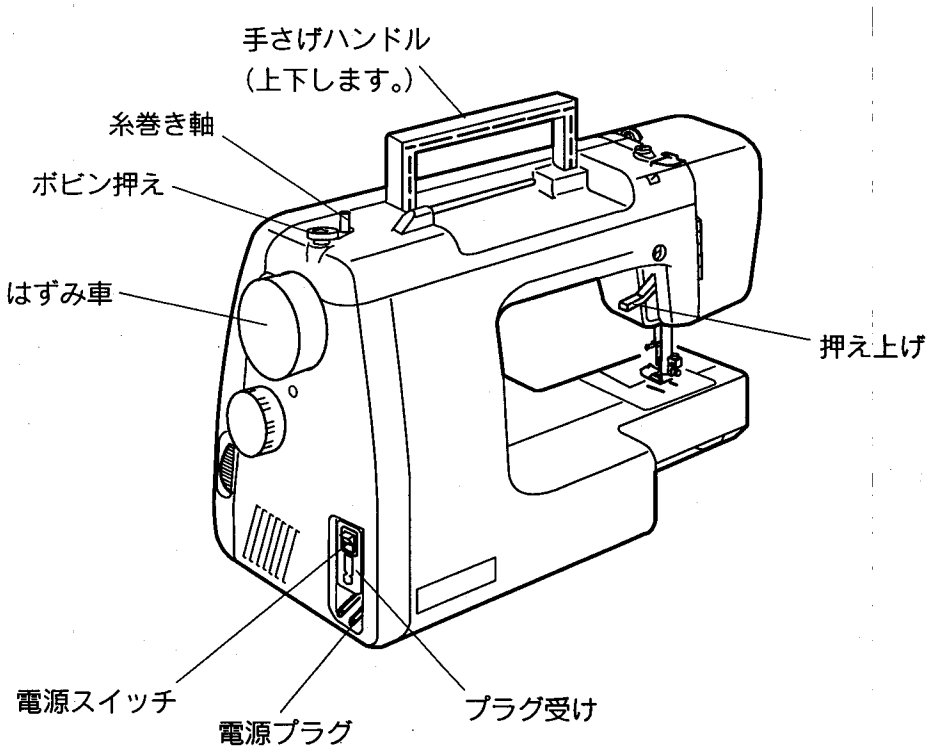


◇ 修理・調整についてのご案内

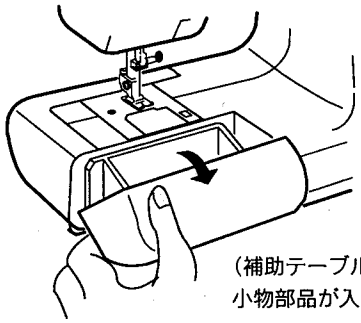
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(25ページ)により点検・調整を行ってください。

●各部の名まえ


糸こま押え
糸立て棒
天びん
糸調子ダイヤル
スピードコントロールつまみ
面板
模様表示窓
糸切り
模様選択ダイヤル
糸通し
針板
送りダイヤル
(ぬい目あらさ調節)
補助テーブル
(小物入れ)
返しぬいレバー
角板
角板開放ボタン
スタート・ストップボタン

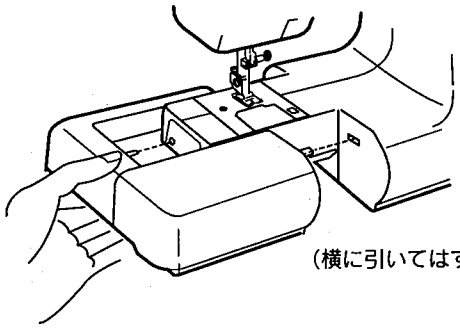

手さげハンドル
(上下します。)
糸巻き軸
ボビン押え
はずみ車
押え上げ
電源スイッチ
電源プラグ
プラグ受け

●補助テーブル



（補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。）

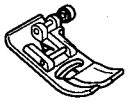
（補助テーブルのはずしかた）



（横に引いてはずします。）

●標準付属品

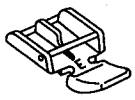
（押えには、記号を表示してあります。）



A　基本押え

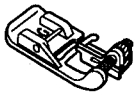
※A基本押えは、ミシンについています。

C　裁ち目かがり押え

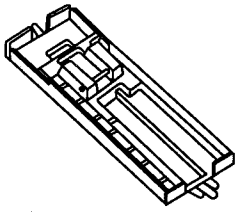


E　ファスナー押え

F　サテン押え

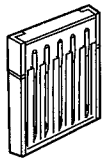


G　くけぬい押え



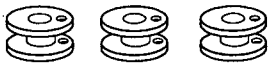
J　ボタンホール押え

キルター
（棒定規）

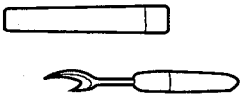


針と針ケース

ねじまわし



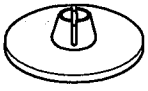
ボビン



目ほどき

ミシンブラシ

糸こま押え（小）



糸こま押え（大）

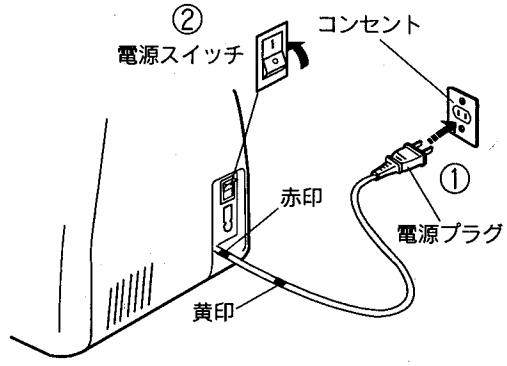
※糸こま押え（大）はミシンの糸立て棒についています。

操作をおぼえましょう

※フットコントローラーはモデルにより別売りになります。

●電源のつなぎ方

(スタート・ストップボタンを使用する場合)

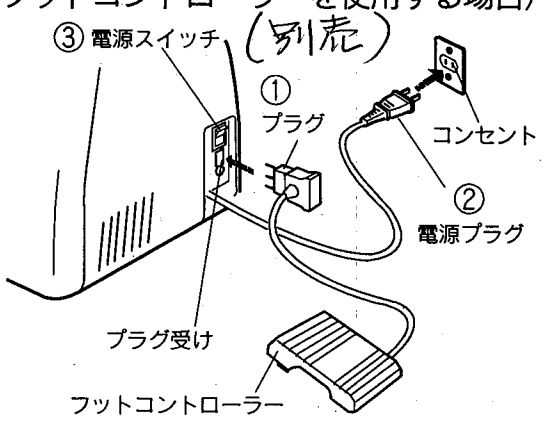


①電源スイッチを「OFF」にして、電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。

※コードを引き出した時に黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。

②スイッチを「ON」にします。

(フットコントローラーを使用する場合)



①電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。

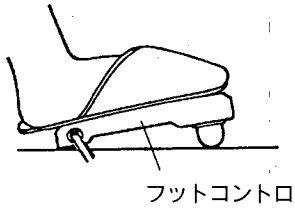
③スイッチを「ON」にします。

※電源は、一般家庭用（100V 50/60Hz）です。

※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

●速さの調節のし方

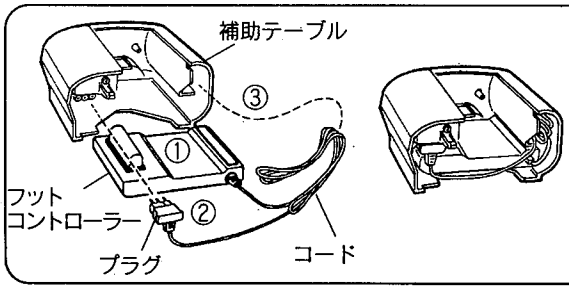
ぬう速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

※スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●フットコントローラーの収納

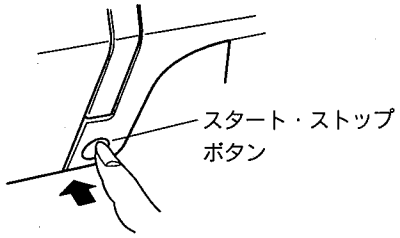


①フットコントローラーを補助テーブルに押しながら入れます。

②プラグを補助テーブルの穴にさしこみます。

③コードを４つ折りにして、補助テーブルに収納します。

●スタート・ストップボタン

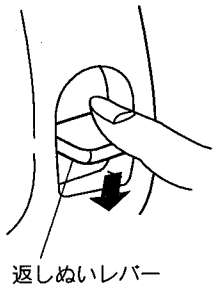


ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりとぬってからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬいはじめます。もう一度押すと、針が上の位置で止ります。

※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、はずしてください。

※下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

●返しぬいレバー

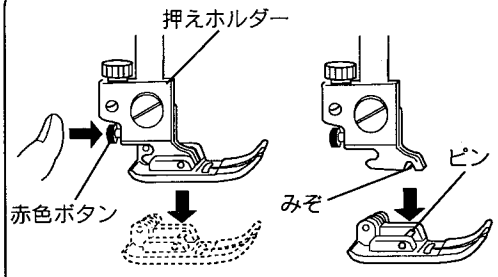


【停止中の返しぬい】
ミシンが動いていない状態で返しぬいレバーを押すと、低速で返しぬいをはじめ、指をはなすと止ります。
【運転中の返しぬい】
ミシンが動いている状態で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいに戻ります。

※不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

●押えのとりかえ方

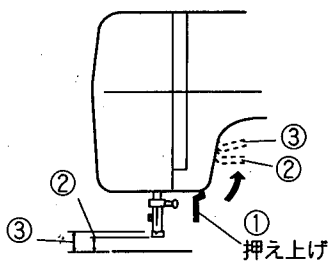
⚠ 電源スイッチを切ってください。



①押え上げをあげて、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

②押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

●押え上げ

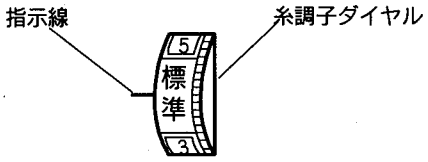


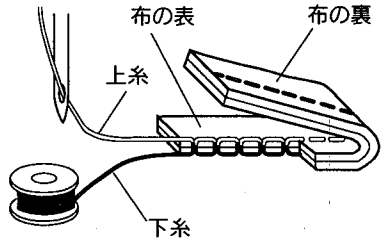
押え上げで、押えの上げ下げをします。
押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

①さげた位置・・・・・・(ぬいのときにはさげておきます。)
②普通にあげた位置・・・(布の取り出しや、押えの交換のときにあげます。)
③さらにあげた位置・・・(補助リフトで、布が入れやすくなります。)

●糸調子の合わせ方

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。
糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。



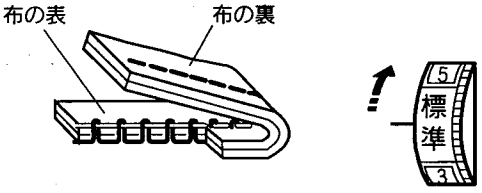


〈バランスのとれた糸調子〉

○直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

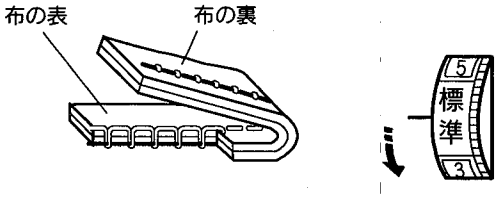
○ジグザクぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。



※下糸が布の表に出ます。

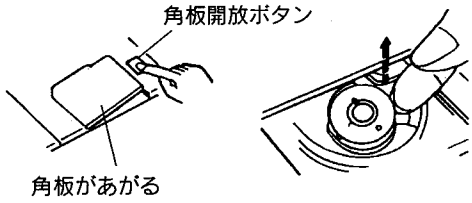
・上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。



※上糸が布の裏に出ます。

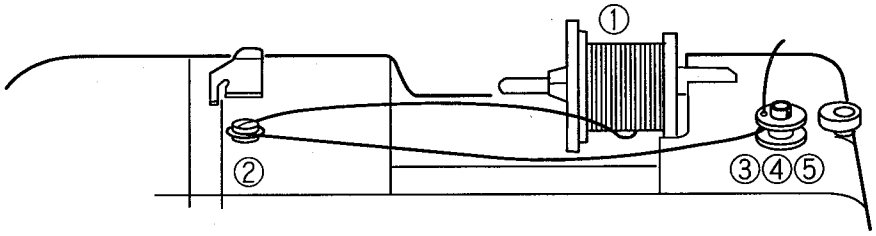
●下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



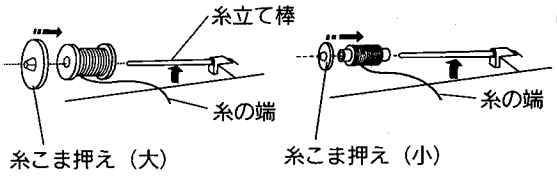
角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

★ボビンに糸を巻きます



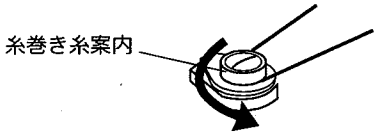
※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置でご使用ください。

〈普通の糸こまのとき〉　〈小さい糸こまのとき〉

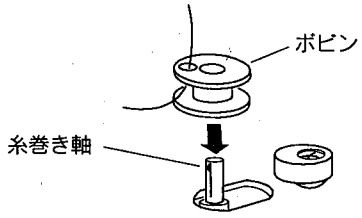


①糸こまをセットします。

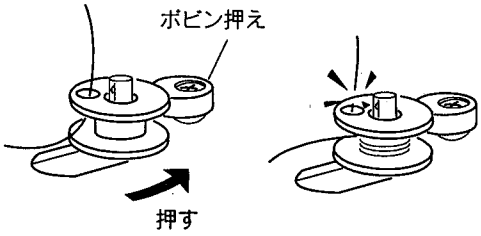
※糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。



②糸巻き糸案内に糸を掛けます。

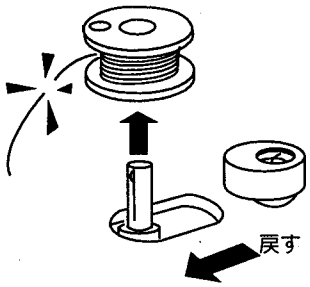


③ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



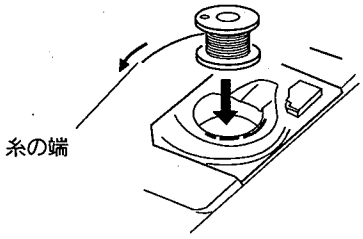
④ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、スタート・ストップボタンを押して巻きはじめます。
糸がボビンに３重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

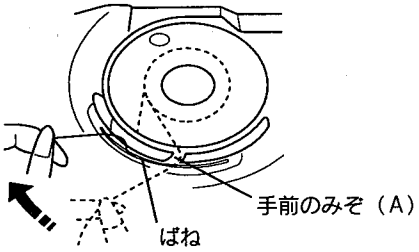


⑤再びスタート・ストップボタンを押して巻きはじめます。
巻き終わるとボビンの回転が止まります。
スタート・ストップボタンを押しミシンを止めてボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりボビンをはずして糸を切ります。

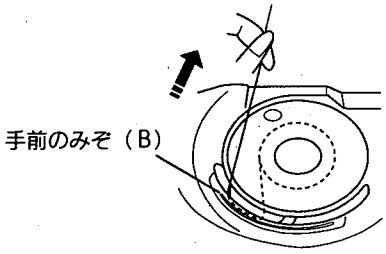
★ボビンをかまにセットします



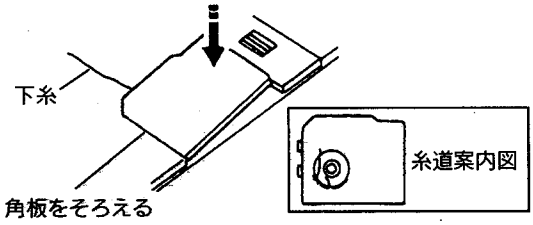
①角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ（A）に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



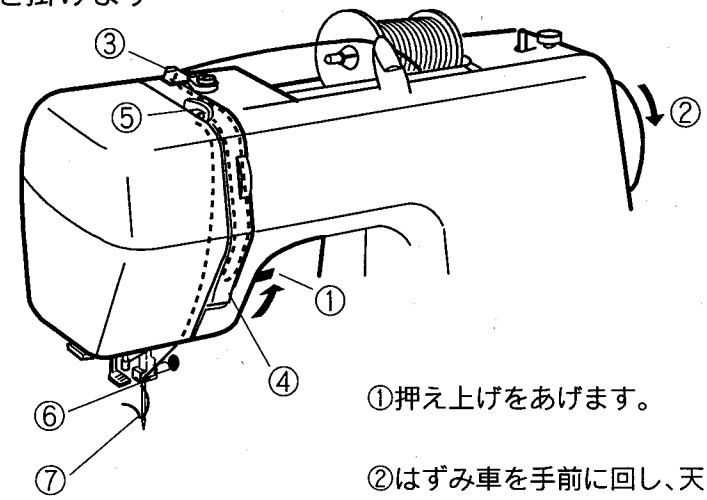
③糸を手前のみぞ（B）に掛けるようにして向こう側に出します。



④下糸を１０cmくらい引き出して、角板をつけます。

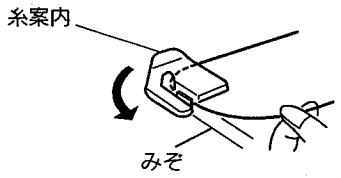
●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

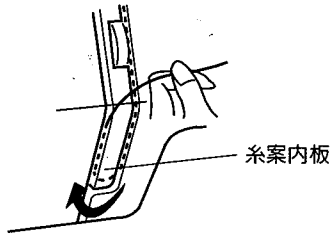


①押え上げをあげます。

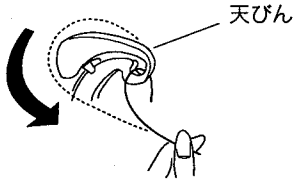
②はずみ車を手前に回し、天びんを一番上にあげます。



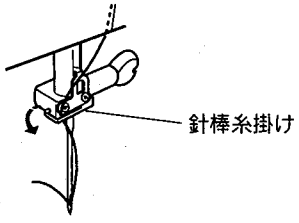
③糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から掛け、みぞにそって手前に糸を引き出します。



④糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。



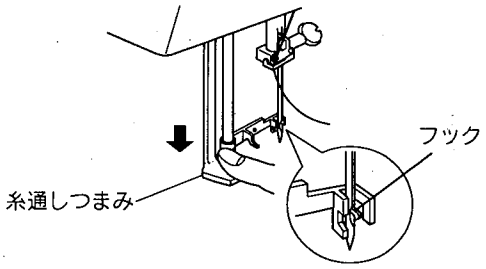
⑤天びんに右から後ろを回して手前に出し、まっすぐ下におろします。



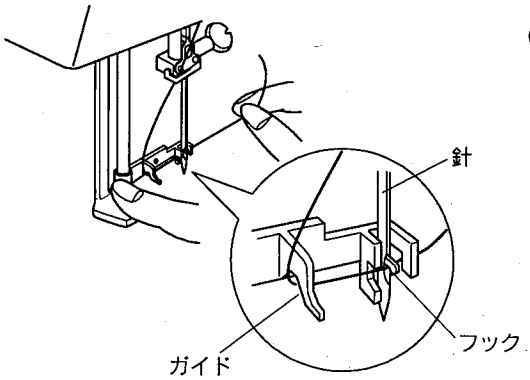
⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

⑦糸通しを使って針に糸を通します。
（糸通しの使い方は、11ページをごらんください。）

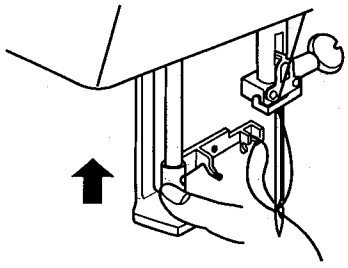
●糸通しの使い方



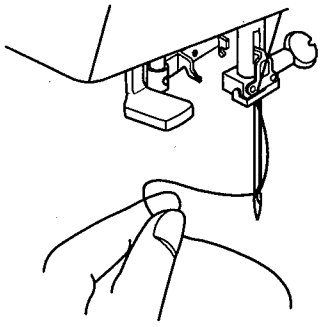
①針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。
フックが針穴に入ります。



②糸を左側からガイドとフックに掛けます。

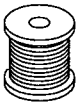


③糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにはなすと、糸の輪が引きあげられます。



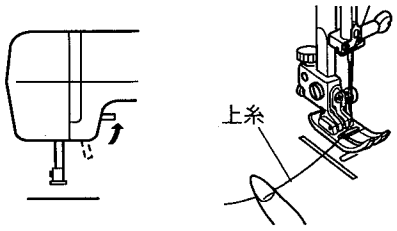
④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

針は、１１～１６番、およびジャノメブルー針が使えます。

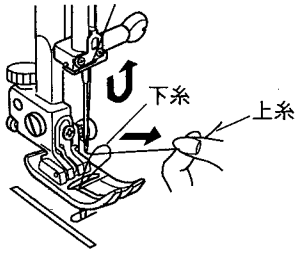


糸は５０～１００番が使えます。

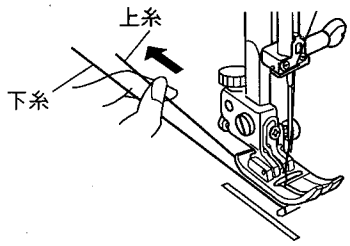
●下糸を引きあげるには



①押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。



②はずみ車を手前に１回転させ、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



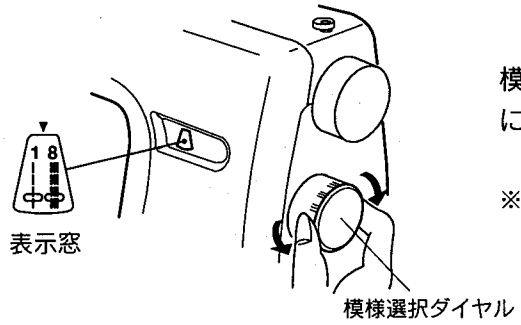
③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。
※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

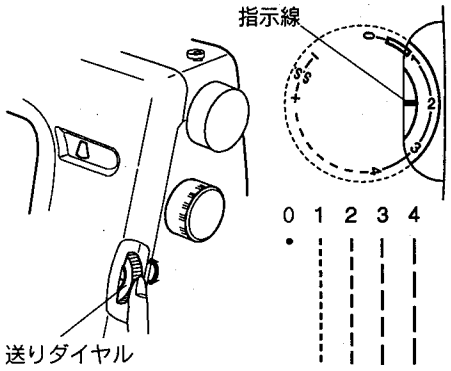
●模様選択ダイヤル



模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に合わせます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針が曲がったり、折れたりする原因になります。

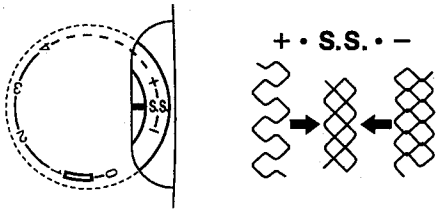
●送りダイヤル（ぬい目あらさ調節）



送りダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。
目盛が大きくなるとぬい目はあらくなります。

模様選択ダイヤルを（ ）または、（ ）に合わせ、送りダイヤルをまわすと、ぬい目あらさは左図のように変化します。

※ は、ボタンホールのぬい目あらさの調節範囲をしめします。



送りダイヤルをS.S.に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ模様は、スーパー模様になります。

★スーパー模様の形の整え方

模様の形が整わないとき、伸びている場合は、「−」方向に、つまっている場合は「＋」方向に送りダイヤルをまわして調節します。

模様を選ぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

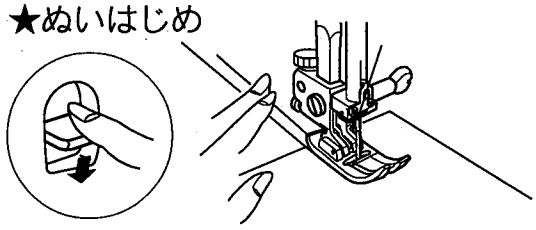
模　様	BH 1 4 2 3							
送りダイヤル		1.5～4		0.5～4	1～3		0.5～1.5	2～3
スーパー模様								
送りダイヤル		S.S.						

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
	または	A基本押え	1.5～4	2～6

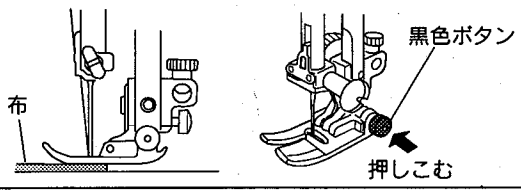
★ぬいはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ぬいはじめます。

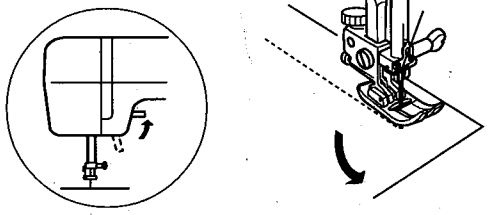
※ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★厚手の布端のぬいはじめ



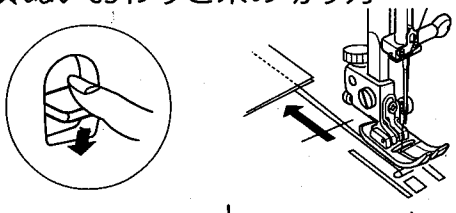
①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。
②ボタンを押したままで押え上げをさげます。
③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

★ぬい方向をかえるには

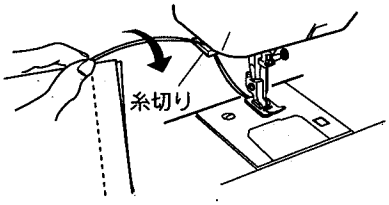


ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわしてぬい方向をかえます。

★ぬいおわりと糸の切り方

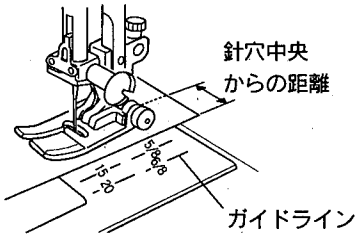


返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用



布端を角板及び針板のガイドラインに合わせてぬいます。

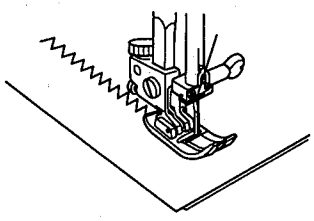
※数字は、針穴中央からの距離です。

数　字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

●ジグザグぬいとかがりぬい

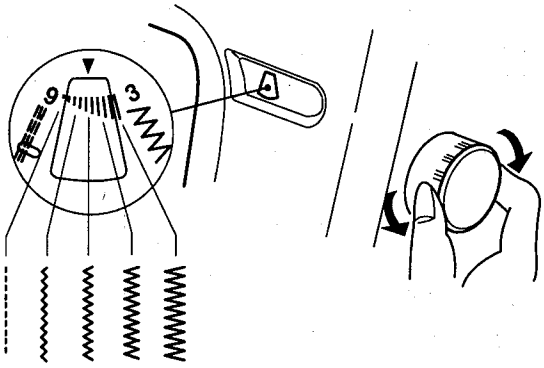
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
		A基本押え または C裁ち目かがり押え	ジグザグぬい‥0.5～4	2～5
			かがりぬい‥‥ 1～2	標準～7

★ジグザグぬい



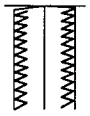
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

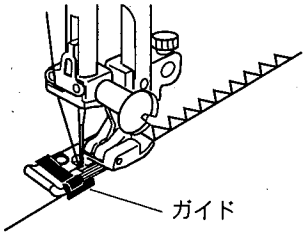
※裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。



送りダイヤルを「1」に合わせて、模様選択ダイヤルを 間でかえると、ぬい目の幅（ジグザグ）は、図のように変化します。

★ジグザグぬい裁ち目かがり



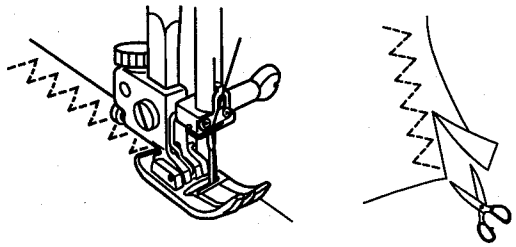


※ぬい目の幅を最大にします。

布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。

★トリコットぬい裁ち目かがり

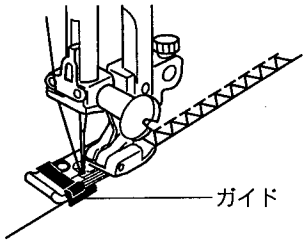
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0．5～1．5	標準～6	



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬいステッチ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		C裁ち目かがり押え	S.S.	3～7	



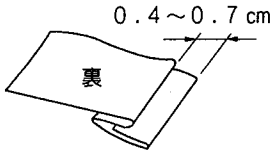
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止めに利用します。

●くけぬい（まつりぬい）

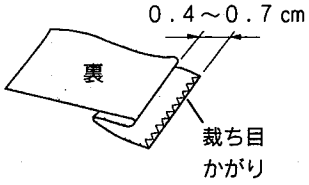
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	Gくけぬい押え	1～3	1～標準	※スカートやワンピースなどの裾のまつりが簡単にできます。

（布の折り方）

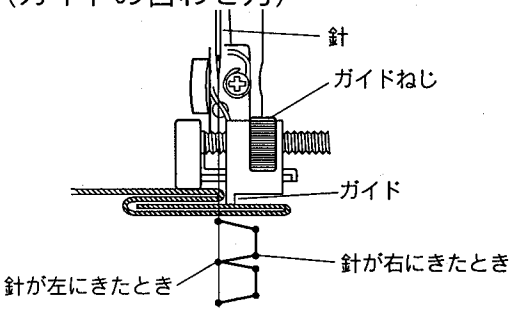
（うすい布、普通の布の場合）



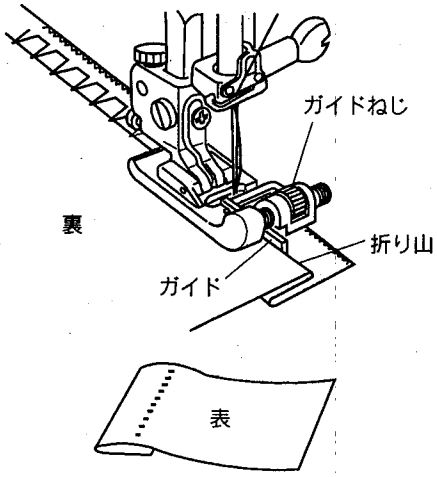
（かたい布、厚い布の場合）



（ガイドの合わせ方）



（ぬい方）

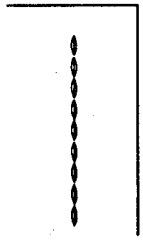


①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬいます。
③ぬいおわったら布をひろげます。
※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

●三重ぬい

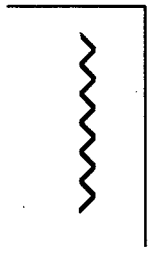
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	A基本押え	S.S.	2～6	※布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

★直線三重ぬい



丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

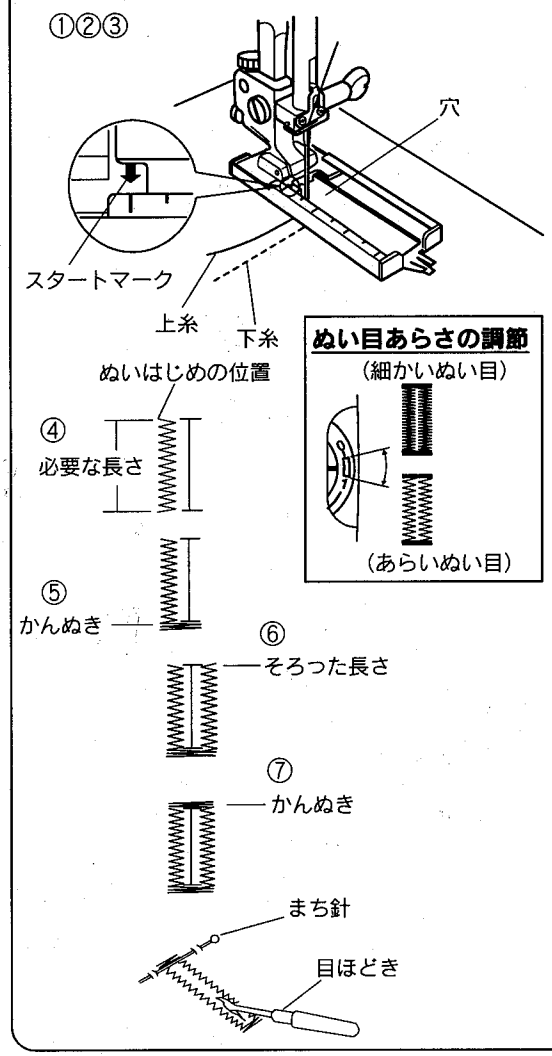
★ジグザグ三重ぬい



飾りぬいに使います。

●ボタンホール

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	1 4 2 3	Jボタンホール押え	0.5～1 （▭ の範囲）	1～標準	

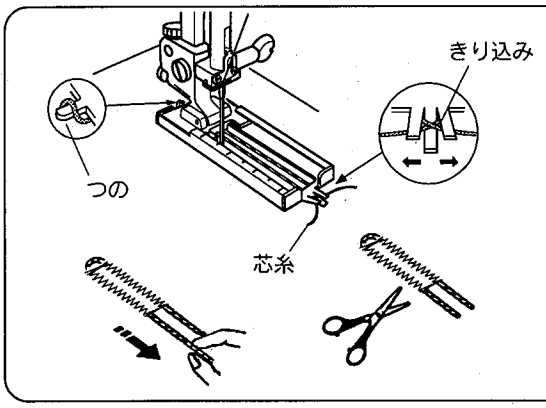


※必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

【ぬい方】

①模様 1 を選びます。
②針と押え上げをあげて押えを取りつけます。
③上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
　押えを手前いっぱいまで引き出してスタートマークを合わせます。
④ぬいはじめの位置に針をさして、押えをおろし、ミシンをスタートさせます。必要な長さだけぬい、ミシンを止めます。
⑤模様 4 2 を選び、かんぬきを５針くらいぬい、ミシンを止めます。
⑥模様 3 を選び、左側と同じ長さまでぬい、ミシンを止めます。
⑦模様 4 2 を選び、かんぬきを５針くらいぬいます。
⑧押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を１０cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
⑨かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

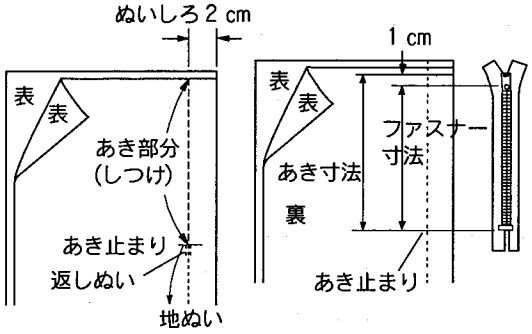
●芯入りボタンホール



※芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。
※芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。
①つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。
②ぬいはじめの位置に針をさし、押えをさげてぬいます。
※ぬい方はボタンホールぬい手順と同じです。
③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ファスナーつけ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		Eファスナー押え	1．5～4	標準～6	※スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。



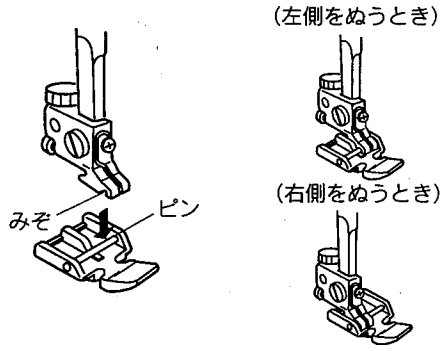
〈準備〉例：左脇あきのぬい方

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをし数針返しぬいをします。

②あき部分は、しつけをしておきます。

※しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいぬしてぬいます。

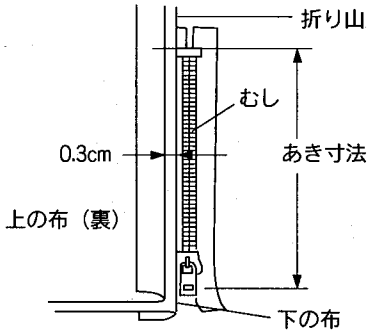
※あき寸法はファスナー寸法に1 cmプラスした寸法です。



〈ファスナー押えのつけ方〉

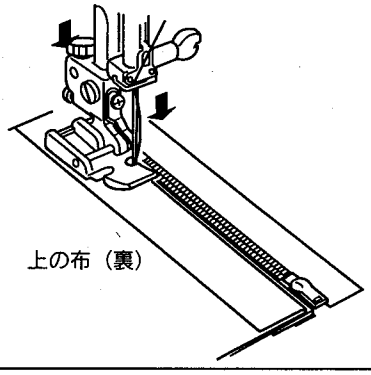
○左側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

○右側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



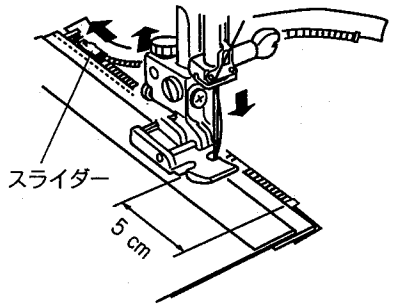
〈ぬい方〉

①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0．3 cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

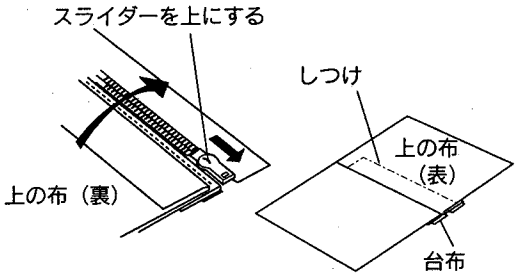


②押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。

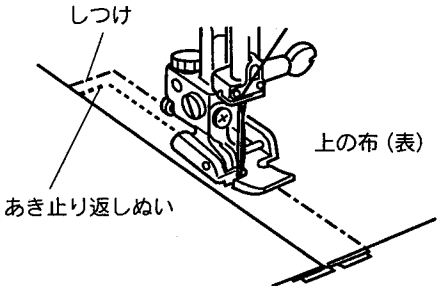
③押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりからぬいます。



④ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端までぬいます。

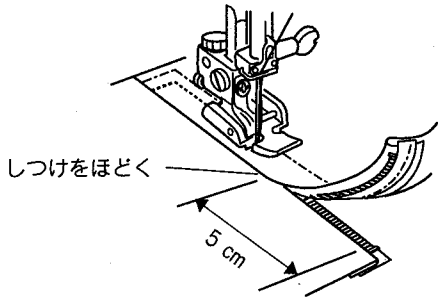


⑤スライダーを上に引きあげて、つまみの金具を上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

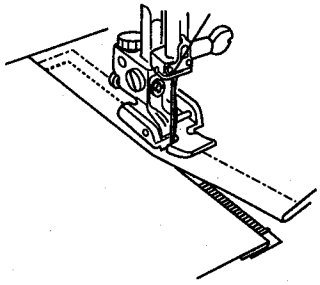


⑥押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

⑦上の布のあき止まりを返しぬいして、押えの端にスライダーのきわを当ててぬいます。



⑧ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめて、はずみ車を手前に回し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。

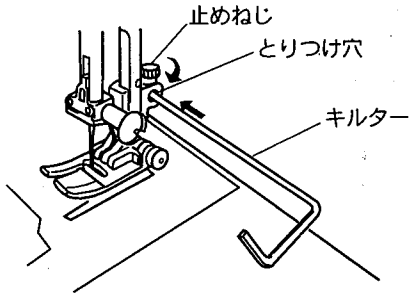


⑨スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分をぬいます。

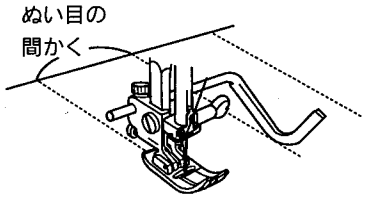
応用ぬいいろいろ

●キルティング

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	A基本押え ＋キルター	1．5～4	3～6	※ぬい目を平行にぬっていく方法で、袋物などの装飾に利用します。



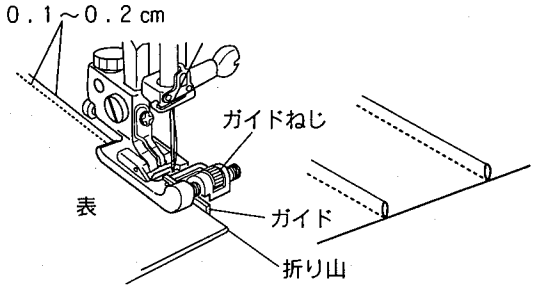
キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、止めねじをしめます。



キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	Gくけぬい押え	1．5～3	2～6	※ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。

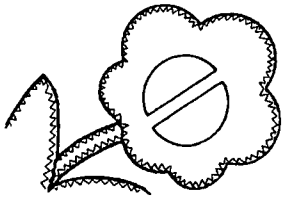


①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0．1～0．2 cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。

●アップリケ

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0．5～1	1～標準	※アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。また、両面接着芯を使うと便利です。

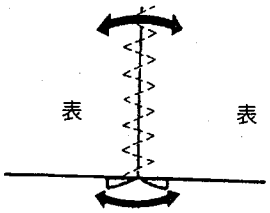


アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

※カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前に回し、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●パッチワーク

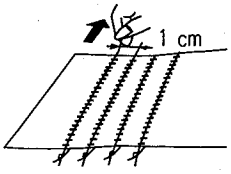
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0．5～1．5	1～標準	

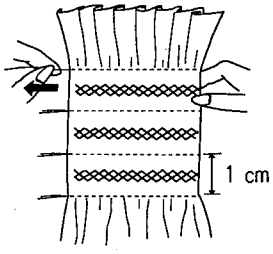


布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●スモッキング

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	S.S.	標準～6	

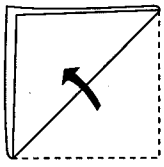


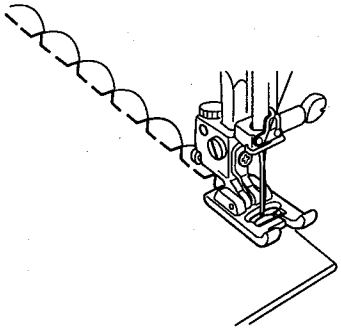


①糸調子ダイヤルを1～3にして、ぬい目のあらさ0．3～0．4cmの直線ぬいを、1cm間かくで数本ぬいます。
※ぬいおわったら糸調子ダイヤルを「標準」に戻します。
②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
③直線ぬいの糸と糸の間に模様ぬいをしてから、直線ぬいの糸を抜きとります。

●シェルタック

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	2～3	6～8	※糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。





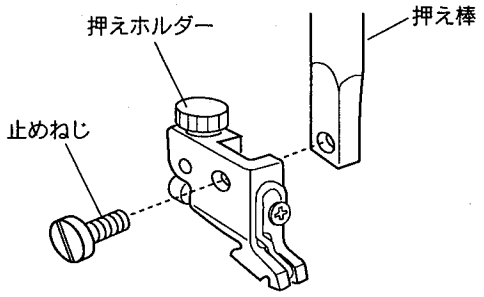
①うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。
はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにしてぬいます。

②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

押えホルダー・針・ランプのとりかえ方

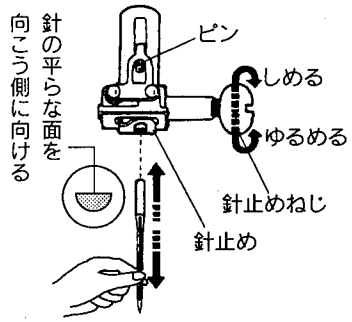
とりかえのときには、必ず電源スイッチを「切」にしてコンセントから電源プラグを抜いてください。

●押えホルダーのはずし方・つけ方



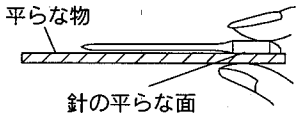
〈はずし方〉
押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを左にまわしてはずします。
〈つけ方〉
押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ止めねじをさしこみ、右にまわしてしっかりつけます。

●針のとりかえ方



〈はずし方〉
針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。
〈つけ方〉
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

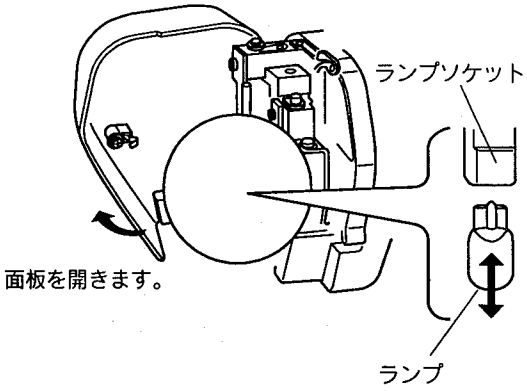
針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

※ランプをとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※ランプは冷えてからはずしてください。

●ランプのとりかえ方



①面板を開けます。

②ランプをそっと引き抜きます。

③ランプをソケットの穴にあわせながら差し込みます。

※ランプ品番は、０００００２６００２（12V、5W）

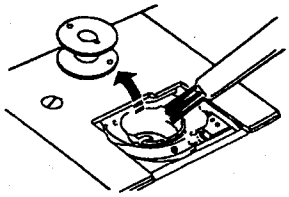
ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ

手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

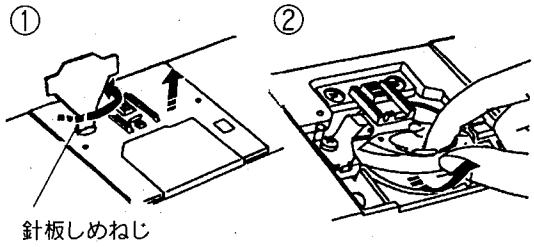
使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。
※針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

★かまの掃除



①角板をはずし、ボビンをとり出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

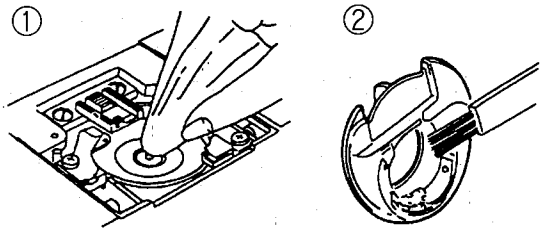
★かまの分解



①針板しめねじをはずし、針板をはずします。

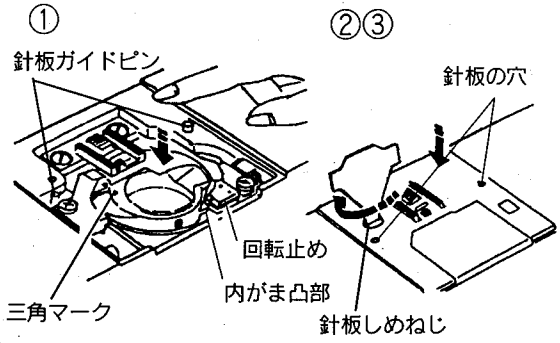
②ボビンをとり出し内がまの手前を上に引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
②内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。
※ブラシで掃除しにくい糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸とってください。

★かまの組つけ



①内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

②ボビンを入れ２か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

③針板しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬいはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 7ページ参照 23ページ参照 23ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 12ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	9ページ参照 24ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	23ページ参照 23ページ参照 14ページ参照 12ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	23ページ参照 12ページ参照 12ページ参照 10ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 ※特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	7ページ参照 9、10ページ参照 12ページ参照 ぬい目を細かくする
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。	24ページ参照 ぬい目をあらくする
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	7ページ参照 12ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	5ページ参照 24ページ参照 8、9ページ参照 5ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	18ページ参照 18ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	24ページ参照 24ページ参照

別売品のご紹介

1．直線押え ..... (NO.823801015)

●直線ぬい

〈セットのめやす〉

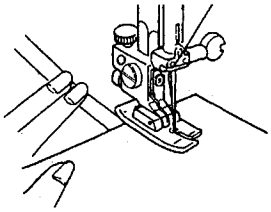
模様選択ダイヤル .....

糸調子ダイヤル ..... 2～6

ぬい目あらさ ..... 1.5～4

押え .....

H直線押え



《ぬい方》
糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

2．三つ巻き押え ..... (NO.820809014)

●三つ巻きぬい

〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル .....

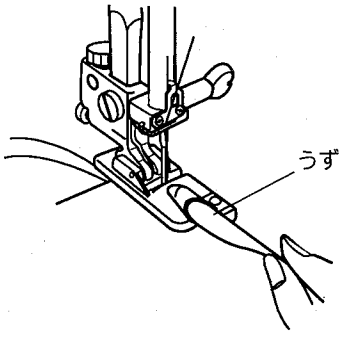
糸調子ダイヤル ..... 3～6

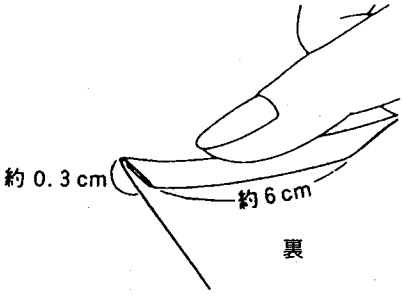
ぬい目あらさ ..... 1.5～4

押え .....

D三つ巻き押え

《ぬい方》
①布端の長さ約6 cmを、約0．3 cmの巾で2度折りまげます。
②ぬいはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2 cmぬいます。
④はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。





3．イーブンフット ..... (NO.214870008)

押えの使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。

仕　　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	55W / ランプ 12V 5W
外形寸法	幅 42 cm X 奥行 17 cm X 高さ 30 cm
重量	8.0 Kg（本体）
使用針	家庭用　HA×1
縫速度	毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかって便利です。
★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎ 03（3277）2200
〒 104-8311　東京都中央区京橋 3-1-1

池袋支店　☎ 03（3987）5266
〒 170-0013　東京都豊島区東池袋 1-28-7

西東京支店　☎ 03（3337）0482
〒 166-0001　東京都杉並区阿佐ヶ谷北 2-36-1

八王子支店　☎ 0426（42）0777
〒 192-0046　東京都八王子市明神町 4-11-12

横浜支店　☎ 045（842）3816
〒 233-0002　神奈川県横浜市港南区上大岡西 1-13-18

千葉支店　☎ 043（222）5121
〒 260-0012　千葉県千葉市中央区本町 1-5-14

船橋支店　☎ 0474（32）2785
〒 273-0011　千葉県船橋市湊町 2-1-8

春日部支店　☎ 048（734）0825
〒 344-0067　埼玉県春日部市中央 68-19 種村ビル 1 F

川越支店　☎ 0492（22）2454
〒 350-0043　埼玉県川越市新富町 1-12-12

高崎支店　☎ 027（324）0055
〒 370-0046　群馬県高崎市江木町 1510-1 シロタビル

富山支店　☎ 076（431）8827
〒 930-0029　富山県富山市本町 3-25

三条支店　☎ 0256（32）1737
〒 955-0071　新潟県三条市本町 4-1-8

長野支店　☎ 026（228）1491
〒 380-0928　長野県長野市若里 3-1-43

仙台支店　☎ 022（249）4161
〒 982-0011　宮城県仙台市太白区長町 5-3-25

郡山支店　☎ 024（932）3362
〒 963-8852　福島県郡山市台新 1-4-15

盛岡支店　☎ 019（624）6741
〒 020-0021　岩手県盛岡市中央通 2-9-20

名古屋支店　☎ 052（733）5116
〒 466-0027　愛知県名古屋市昭和区阿由知通 1-12-3

四日市支店　☎ 0593（51）2081
〒 510-0085　三重県四日市市諏訪町 14-1

浜松支店　☎ 053（476）5191
〒 433-8122　静岡県浜松市上島 5-5-30

大阪支店　☎ 06（6583）8031
〒 552-0002　大阪府大阪市港区市岡元町 3-1-4

奈良郡山支店　☎ 0743（54）3060
〒 639-1012　奈良県大和郡山市城見町 2-4

和歌山支店　☎ 0734（31）6216
〒 640-8033　和歌山県和歌山市本町 2-12

尼崎支店　☎ 06（6432）3307
〒 661-0041　兵庫県尼崎市武庫の里 1-12-3

加古川支店　☎ 0794（23）9980
〒 675-0066　兵庫県加古川市加古川町寺家町 75-8

西陣支店　☎ 075（461）7940
〒 602-8276　京都府京都市上京区千本通上長者町上ル百万遍町 89

岡山支店　☎ 086（222）8896
〒 700-0814　岡山県岡山市天神町 1-26

広島支店　☎ 082（228）5181
〒 730-0016　広島県広島市中区幟町 15-9

観音寺支店　☎ 0875（25）2887
〒 768-0060　香川県観音寺市駅通り甲 1017-5

熊本支店　☎ 096（354）6523
〒 860-0845　熊本県熊本市上通り町 8-15

福岡支店　☎ 092（821）6495
〒 814-0021　福岡県福岡市早良区荒江 3-15-12 野田部ビル

長崎支店　☎ 095（849）6025
〒 852-8107　長崎県長崎市浜口町 3-8

(株) ジャノメ北海道販売　札幌本店　☎ 011（861）5634
〒 003-0027　札幌市白石区本通 3 丁目北 1-21

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ジャノメミシン

東京都中央区京橋3−1−1 蛇の目ミシン工業(株)

755-800-205